

〔第19回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

老化・老年病研究を支える 実験動物管理室のミッションII

—エイジングファーム育成動物の現在と将来—

実験動物管理室
小木曾 昇 室長

2017年4月11日(火) 16時30分～
第1研究棟2階大会議室

実験動物管理室では基礎老化研究の材料となるエイジングファーム (AF) 育成動物を多数飼育し、NCGG内に向けて随時供給を行っている。これらの長期的に飼育された加齢動物を研究に用いる場合、系統の特性だけではなく個体導入時のロット間のバラつき、飼育環境の違い（照明条件、飼料、飲水、床敷、ハンドリング方法等）を考慮に入れる必要があり、これまでそれらの個体へ及ぼす様々な影響について報告してきた。現在我々はAF育成動物の老年病モデル動物としての評価を行うため、生理学、行動学、病理・形態学、微生物学的解析を多面的に行っており、系統特性を含め個体レベルでの有用な老化マーカーの探索を行っている。

また管理室では発生工学技術を利用したマウスクリーン化（外部研究機関からの授受時）、精子や受精卵の凍結保存およびそれらの蘇生（個体化）等の研究支援業務の他、ゲノム編集技術（CRISPR/Cas9システム）を用いた老化・老年病モデル動物の開発にも取り組んでいる。本会ではこれまでに蓄積されたAF動物の基礎データの進捗状況、所内に向け行っている研究支援業務について紹介したい。

座長：渡邊 研